紹　介

日本獣医師会による口蹄疫現地防疫業務支援のための獣医師派遣に参加して

淺沼健太†（元JICA専門家）

1　は　じ　め　に

平成22年4月20日に今回の口蹄疫発生1例目の報告があってから，その勢いは止まるところ知らず，5月18日には東国原宮崎県知事が非常事態宣言を出した．

日本獣医師会からは5月30日に第1陣として4名が支援活動のため派遣されていたが，ワクチン接種済家畜の計画処分が始まるのを受け私共第2陣が6月13日より同月27日までの予定で派遣されることになった．

私がこの支援業務に応募したのは，卒後ドイツ系製薬会社での人医薬の開発業務を経て20代後半から約20年間，㈶畜産生物科学安全研究所で主に抗生物質残留の研究のため牛・豚の殺処分を日常的に行ってきた経験があったのと，同研究所退職後はOMICのバンコク支店次長としてタイの食品衛生指導や緊急輸入米の残農分析及び燻蒸業務，更にベトナム国立食品工業研究院でのJICA専門家を経て，JAS認定検査員として主に豪・米の牧場を中心とした海外での認定活動の合間に国内認定業務で宮崎県の牛農家・豚農家を訪れており，少しでも宮崎のお役にたてればという思いと，また，口蹄疫清浄国であることを理由に汚染国からの畜産品を原則輸入禁止として虎視眈々と流入を狙っている国々の圧力を阻止してきたのに，この口蹄疫を抑えることが出来なければ一挙に汚染国からの安い畜産品が入り，国内畜産の破壊に繋がるという思いからであった．

2　取り組みの概要

日本獣医師会から同時期に派遣された4人のうち，私と全国開拓農業協同組合連合会の高尾獣医師，伊藤ハム㈱の斎藤獣医師は，ワクチン接種済木城町グループに配属され，富山県獣医師会の長応獣医師は豚診療のベテランということで他の町の疑似患畜グループに配属されていたようである（私は3日目より9日目までは豚を行ったので牛・豚半々という結果あった）．

業務の当日は，午前7時50分に西都市の宿舎より都農町グループと共に送迎バスに乗り木城町総合体育館に向かう．

体育館で，着ていたものを脱ぎ，使い捨て防護服タイベックを着用，1着は長靴の中にいれ外側のもう1着は長靴の外に被せ，ガムテープで密封する．

手袋も1双目は中側の1着目のタイベック上に被せ，2双目は2着目のタイベックの上に被せて，これまたガムテープでシールする．首に隙間が出来ないようにタオルを巻き，ウイルス防除用マスク及び防護帽を着用する．

更に，着替え用の下着類2着以上，現場離脱用のタイベック・マスク・防護帽及びタオル1着以上，現場離脱用消毒済長靴1足以上をビニール袋に入れ口を縛って携行する．タイベックスの背中に獣医師であることを示すVマークと名前をマジックで入れ8時半のミーティングの後，其々の現場に向かう．

現場である共同埋却場及び大型農場では，周囲に足場を組み目隠しメッシュまたはブルーシートで目隠しをし，入り口にエンジンポンプ付き消毒噴霧器と噴霧要員を配置．入口より約10m離れた外側に着替用クリーンテントを設置．ダーティーエリアを退場する時は長靴及びタイベック全体を噴霧消毒して，このクリーンエリアテントに入り，長靴のガムテープを剝がしてタイベックを内側が外になるよう脱ぎ，次いで着用していた下着類を含む全てを脱ぎ，消毒済下着と新しいタイベックを着用して，新しい長靴に履き替え，移動用車両に乗り込み移動する．

脱いだものはテントの外側に用意されたフレコン（フレキシブルコンテナバッグ：粉末，粒状物の荷物の保管・運搬のための包材）に投げ捨てる．

（1）牛に対する処置

運ばれてきた牛は暴れるものはセラクタール4～8m*l*の筋注（16G）で前麻酔して係留し，暴れないものは係留後，同様にして前麻酔する．

前麻酔が効いていることと牛が転倒しても避けられる距離があることを確認後，30m*l*シリンジ（16G）でパ

†　連絡責任者：淺沼健太
〒252-0134　相模原市緑区下九沢1764-7-205　☎042-763-5941　E-mail : kasanuma@yahoo.co.jp

コマを90～120ml頸静脈注射する．パコマが効いてくると振顫が起こり始めるので危険防止のため一旦注射を中断して牛が転倒しても蹴られない距離に避難し，様子を見て蘇生しそうなら追加注入する．

牛の死亡を確認後搬出作業員に搬出・埋却を指示する．

なお，塩化カリでなくパコマを使用するのは，塩化カリでは心筋に作用する際に全身の硬直が起こり施術者にとって危険性が高いが，パコマではその主成分の〔モノ・ビス（塩化トリメチルアンモニウムメチレン）〕アルキルが陽イオン系界面活性剤であるので静脈注射すると，クラーレ様作用により筋弛緩剤として作用する他，そのタンパク凝固作用により栓塞を惹起する．また溶媒がトルエンの50％製剤であるのでトルエンの中枢神経抑制作用で強力な麻酔作用が起こり，この溶媒との相乗効果で速やかに個体を安楽死せしめると考えられるからである．

（2）豚に対する処置

ア　炭酸ガス殺

フォークリフトに装着した移動用大型ケージに豚を6～10頭追い込み，リフトを持ち上げて4.5t積の産業廃棄物処理用特装車に落とし込む．（この直前に特装車の後部ゲートがロックされていることを確認しないと豚の蹄が間に入り込みガス漏れの原因となる．）

豚が30～50頭入った時点で上部をブルーシートで覆い，ガス注入初期に炭酸ガス吸入によって惹起されるアシドーシスによる騒乱時の豚の飛び出しを防止させるために最低四隅を補助作業員にしっかりと押さえさせ，30kgボンベから直噴ノズルを使用して炭酸ガスを注入する．湿度の高い日ではノズルがドライアイスで詰まることがあるので，音が変わったならばノズルを取り出し叩いてドライアイスを除去し，ガス注入を再開する．豚の鳴き声や呼吸音に注意してガスが効いていない個体を発見したならば，その個体目掛けて集中的にガス噴射して確実性を増す．ボンベのガスが最終に近づけば噴射音が乾いた音に変化するので噴射を止め，シートを密着して豚が呼吸しているかどうかを確認する．4～5分して，ボディーの周囲を手で触診して豚の呼吸振動・体温等を確認し，呼吸振動が感じられず，かつ体温低下が確認されればブルーシートを外し，四隅を内に折込み，シートが走行中飛ばないようロープを掛けて発車さす．ボンベを1本使っても蘇生した豚がいる場合には荷台の中に入りパコマ30mlの後大静脈注射にて安楽死させる．

イ　電殺・薬殺併用法

豚6～10頭をパネルで囲んだ空間に追い込み，340Vの鋏式電殺器で頭部を挟んで気絶させ，更に心臓部と背部を挟んで心臓に電撃を加える．気絶しただけの個体（半数から6割）はカテラン針を装着した30mlシリンジでパコマ30mlを豚の肘直後の肋間から後大静脈に挿入し薬殺させる．

死亡が確認されればローダーを使ってトラック（通常ガス殺後の荷台のスペースに重積）に積み込みブルーシートで覆いロープを掛けて搬出．

300kgを超える大型個体は危険防止のため予めマフロパン2mlの筋肉注射で沈静化させてから電殺を行う．雨天等で電殺が不可能な場合はトラックのブルーシートの上を移動用ケージの底で押さえて飛び出しを防止した上，安全な場所からノズルを差し込みガス殺する．

哺乳豚はフレコンに入れ荷台に籠等でスペースを作り育成豚に踏みつぶされないようにしてからガス殺する．

なお，電殺器の340Vは電設業界では危険電圧と呼ばれ感電すると手が離れず感電死しやすいため雨天での使用は厳禁である．

このようにして一日の作業が終了し，体育館に戻ると，体育館に入る前に長靴，タイベック，着替え等の入っているポリ袋の表面を噴霧消毒し，ヨード剤での嗽と，消毒用石鹸での手洗い後入館し，移動時着ていたタイベック，下着を脱ぎ，朝持ってきた消毒済の物に着替えホテルへ帰る．

ホテルに帰ると，先ず石鹸を使ってシャワーを浴び，移動用に来ていた上着類を石鹸で洗い，移動時に履いていたサンダルを熱湯消毒して1日が終わる．

3　さ い ご に

派遣された6月13日は折しも九州南部が例年より10日遅れで梅雨入り宣言なされた翌日で，支援業務中はこの梅雨の長雨の中で行った（晴れた日は1日だけで，毎日，雨の中，時には合羽を着てずぶ濡れで行った事もあった）．

今回，口蹄疫が伝染性の強いウイルス疾患であるのでウイルスの拡散を防止するためのバイオハザードを常に念頭に置いたマニュアルに基づいた対応となったため，従事者にとっては，特にこの梅雨の時期では長靴と手袋に汗が溜まるくらい過酷で，常に脱水防止のために水分補給に心掛けて，毎日が熱中症との戦いであった．

6月30日をもってワクチン接種済家畜の殺処分が全て終わり，非常事態宣言解除に向けて動き出しているという報道を聞き，1日も早い宮崎県畜産の復興を心より願うと共に，私共の活動が円滑に行くよう配慮いただき，また，常に暖かくサポートしていただいた木城町役場，宮崎県家畜保健衛生所，宮崎県経済農業協同組合連合会（JA宮崎県経済連）及び㈱ミヤチクの関係者に深く感謝申し上げたい．